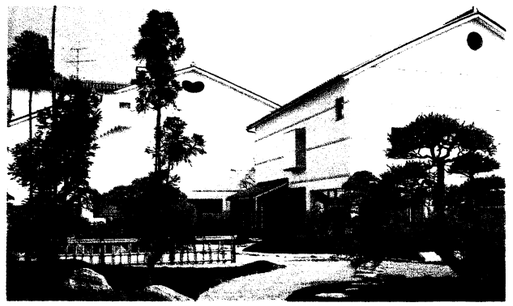
伊丹市立美術館のコレクションについて

大河内菊雄

伊丹市立美術館は1987年11月、先行の財団法人柿衛文庫の建物を増築し、共同利用する形で開館しました。

館蔵品の大きな柱は19世紀フランス美術を代表する作家のひとりであるオノレ・ドーミエの2000点をこえる風刺版画、45点の彫刻、４点の油絵、１点の水彩であり、これを核としてドーミエと同時代の風刺画家たち、とくにグランヴィル、ガヴァルニの作品、また時代をさかのぼって、イギリスのウイリアム・ホガース、ジェイムズ・ギルレイなどの風刺画、下っては明治の初めに日本で活躍したフランス人ジョルジュ・ビゴーの風刺版画などを多数収蔵しています。その他にもゴヤの銅版画、ベルギーの画家ジェームス・アンソールの油彩、版画、ドイツの抵抗の画家ケーテ・コルヴィッツの版画なども少数ながらあり、本館の蒐集の基本概念は「風刺とユーモア」といえましょう。「風刺とユーモア」、あるいはもっとひろげて、いやもっとつっこんでヒューマニズムあふれる作家の作品の蒐集を目指しているといっていいと思います。



伊丹市立美術館

伊丹市は兵庫県のもっとも大阪よりに位置する衛星都市です。人口18万人。近くに大阪、神戸、京都という大都市を控えたこのような市で、新しい美術館を創っていくということはかなりの決断が必要です。ごく近くにある国立、県立、市立の大きな美術館に伍して存在理由を明らかにするためには思いきった個性ある運営をしていかなければならないからです。幸い伊丹市立美術館では市民、市当局の理解ある協力と遠近の周囲の市からきてくださる支持者の方々の力で、特色ある美術館づくりの一歩をふみだすことができました。

蒐集については全くゼロからのスタートだったので、館の性格をどの方向にもっていくかはそうとう悩みました。いうまでもなく美術品というものは、そこらの店へ行って、簡単に買いととのえられるものではありません。高い理想をかかげても、実際にモノがなければどうにもなりません。ですから、旧安宅コレクションのドーミエの版画432点、シャリヴァリ紙の合本12冊、彫刻17点が手に入ると聞いた時の喜びは今も忘れません。早速これをコレクションの核にしょうと思い定めました。

fig. no. 1　オノレ・ドーミエ《株券を売るロベール・マケール》

オノレ・ドーミエの芸術については、今回の展観で十分味わっていただけたと思いますし、このカタログには阿部良雄さんのすぐれた論文が載っていますから、多くはふれませんが、いささか私的なドーミエ体験を語らせていただけるならば、ぼくが初めてドーミエの油絵なるものに接したのは、戦後間もない時期、関西の財界人の応接間においてでした。いまオルセ美術館にある「ロバと二人の盗人」と図柄の似た小品で、確か署名はなく、プレートにドーミエとしてありました。おそらく旧松方コレクションから出たものと思われますが、ほんものかコピーなのかいまになってはわかりません。ただ非常に強い印象を受けました。漠としてですが、ドーミエ独特の褐色の画面がいまも目に浮かびます。以後、ドーミエはぼくには忘れられない画家になり、わが家にあった画集や美術雑誌で図版や記事をあさりましたが、もっとも喜ばせてくれたのはフックスのドーミエの木版画集があったことです。この画集はいまも身近に置いて時々眺めていますが、とくにリトグラフの作品とはひと味ちがうカット類の軽妙さは絶妙です。

石版に直接チョークで描けるリトグラフとちがって、彫り師の手をかりねばならぬ木口木版を、ドーミエはあまり好まなかったようですが、それでもいま申したカット類をふくめ、フックス画集には500点の作品が収録されています。つけくわえるならば、今回は持ってまいりませんでしたが、伊丹市立美術館では「最後の一筆」という作品の木口木版の版木を所蔵しています。機会があればごらんいただきたいと思います。

さて、こうしたぼくにドーミエ作品を満喫させてくれたのは1975年、神奈川県立近代美術館で開催したドーミエ展でした。非常に状態のいい石版画219点、彫刻58点はまさに圧巻でした。これが日本で初めてドーミエ作品が全面的に公開された展覧会です。その後、1981年に兵庫県立近代美術館が「アンソールとゴヤ、ドーミエ展」で相当数のドーミエの石版画を、また82年には再び神奈川県立近代美術館が石版画150点の展観を行いましたが、彫刻が一緒だったこと、石版画の質がよかったことで、１回目の展覧会がもっとも秀れていたと思います。

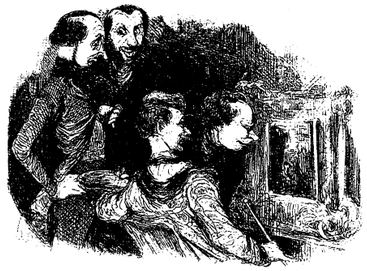


fig. no. 2　オノレ・ドーミエ《批評家たち》

版画の状態、あるいは質がいいと申しました。75年のカタログで、ロジェ・パスロンもやや自慢げに解説していますので、それをかりながら少し説明しますと、ドーミエは描いた石版を印刷屋にわたし、１、２の試し刷りをする。それが初刷りであり、文字も入っていない。次いで薄い紙に、文字つまり説明文（レジャンド）と共に検閲のための試し刷りがされる。これは先頃たまたまみる機会がありましたが、検閲済みの認印がおされています。承認されると、ようやく出版されるわけで、ドーミエの場合、多くはシャリヴァリ紙に載るわけで、それには当然シャリヴァリの記事が裏側には印刷されることになります。ところがそれより以前に白紙（シュル・ブラン）といって白い紙に30〜50部の試し刷りを刷っておく。これが初刷りの次にその品質が最も美しい版画であるのは明らかであろう。75年の展覧会に出品された140点の石版画（140点がフランスから出品され、残り79点は国内で集められました）のうち137点はシュル・ブランであり、３点だけが「シャリヴァリ」の刷りだとパスロンさんはえばっているわけです。いわれる通りですが、今回の展観でも、シャリヴァリ紙に刷られたものはごく少数です。伊丹市立美術館の蒐集の際にも、初め多少の迷いがありましたが、シャリヴァリ紙に刷られたものは紙質が悪く、保存がむずかしいということで、最近ではできるだけさけているからです。ただ所蔵する一枚刷りのものが、全てパスロンのいうシュル・ブランに当るのかどうかは疑問があります。シャリヴァリ紙を読んでいますと、たびたび、シリーズをまとめた石版画集の広告がでています。例えば今回出品されている《ロベール・マケール》の画集の類です。これらとシュル・ブランの関係がどうなるのか、まだ不勉強でいます。ご教示がえられれば幸いです。

ドーミエはロワ・デルテイユによれば4000点以上の石版画を制作し、モーリス・ゴバンとその後のサゴト・ル・ガレェク、マルセル・ルコントの研究によると72点の彫刻を作っています。

伊丹市立美術館としては、今後、油絵、水彩はなかなかむずかしいとしても、石版画、彫刻はぜひとも完全にそろえていきたいと考えています。そして同時に、内外のドーミエ文献、風刺画に関する書物も集めはじめています。もちろんまだまだ未熟な段階ですが、今日の一石が将来実って、この小さな美術館が風刺画の世界的に通用する研究機関となることをひそかに願っているからです。さらにはそれがいま日本の現代美術にもっとも欠けていると思われる人間性の回復に役立てばと思うのです。

北海道立帯広美術館と帯広市が伊丹市立美術館の所蔵品を高く評価して、このように立派な展観をして下さったこと大変うれしく思います。

（おおこうちきくお・伊丹市立美術館長）

※挿図はいずれもフックスの木版画集から

伊丹市立美術館所蔵
「オノレ・ドーミエ展」図録より
1993年　北海道立帯広美術館

開館時間
午前10時から午後6時まで
（入館は午後5時30分まで）

休館日
月曜日（祝日にあたるときはその翌日）
年末年始（12月29日～1月3日）
展示入替時

Museum Hours:
Open Tuesday–Sunday, 10:00 am.–6:00 pm.
(Doors close at 5:30 pm.)
Closed Mondays and December 29–January 3.
Except for New Years, open on national holidays.
Before special exhibitions, close to permit mounting.

観覧料
常設展　一般 200円　大学・高校生 150円
　　小・中学生 100円
企画展　別料金になります。
※20人以上の団体および前売券は各2割引となります。

Admission:
Adults ¥200
High school and college students ¥150
Elementary and junior high school students ¥100
Extra admission may be charged for special exhibitions.
(Groups of 20 or more persons or visitors purchasing advanced tickets may receive a 20% discount.)

建築のあらまし
開　　館：1987年11月
敷地面積：3,214.6㎡
建築面積：778.3㎡（地上部）
延床面積：1797.2㎡（地上部）・616.99㎡（地階部）
規　　模：地上3階、地下2階建
高　　さ：軒高:5.8m
　　最高部の高さ：14.8m
構　　造：鉄筋コンクリート造

交通のご案内
●阪急伊丹駅より徒歩東へ6分、北へ3分
●JR伊丹駅より徒歩西へ6分、北へ3分
●伊丹市バス・阪急バス伊丹本町停留所より徒歩北へ3分
※宮ノ前地下有料駐車場
Nine minutes on foot from Itami Hankyû Station or Itami JR Station.
Three minutes on foot from Itami Honmachi bus stop on the Amagasaki-Ikeda Hankyû Bus Line.

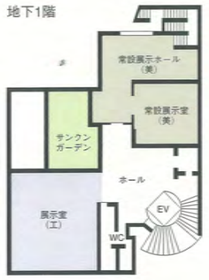
ITAMI CITY MUSEUM OF ART
伊丹市立美術館
〒664-0895　伊丹市宮ノ前2丁目5番20号
TEL.0727-72-7447　FAX.0727-72-5558
柿衛文庫　TEL.0727-82-0244
5-20, 2-chome Miyanomae, Itami, Hyogô, Japan 664-0895.

主な施設
（美）＝美術館
（柿）＝柿衛文庫
（工）＝工芸センター

1階

2階

地下1階



地下2階

2001.7.1制作

ITAMI CITY MUSEUM OF ART

伊丹市立美術館

森口宏一（Hirokazu MORIGUCHI）
「仕組（ダイ）Ⅱ」1992年

伊丹市立美術館は1987年11月、先行の財団法人柿衛文庫の建物を増築し、共同利用する形で開館いたしました。

館蔵品の大きな柱は、19世紀フランス美術を代表する作家のひとりであるオノレ・ドーミエの2,000点をこえる諷刺版画、49点の彫刻、4点の油彩であり、これを核としてドーミエと同時代の諷刺画家たちの作品、また時代をさかのぼってイギリスのウィリアム・ホガース、ジェイムズ・ギルレイ、ジョージ・クルークシャンクなどの諷刺版画、下っては明治の初めに日本で活躍したフランス人ジョルジュ・ビゴーの諷刺版画などを多数収蔵しています。その他にもベルギーの画家ジェームズ・アンソールの油絵、版画、ドイツの抵抗の画家ケーテ・コルヴィッツの版画などもあり、本館の蒐集の基本概念は「諷刺とユーモア」といえましょう。

もっともそれだけにこりかたまるのではなく、ラウル・デュフィの代表的油彩「海の女神」をはじめとして、明るく楽しいアメリカ現代作家の大作版画や日本の現代作家の絵画、彫刻も少数ながら収蔵しています。

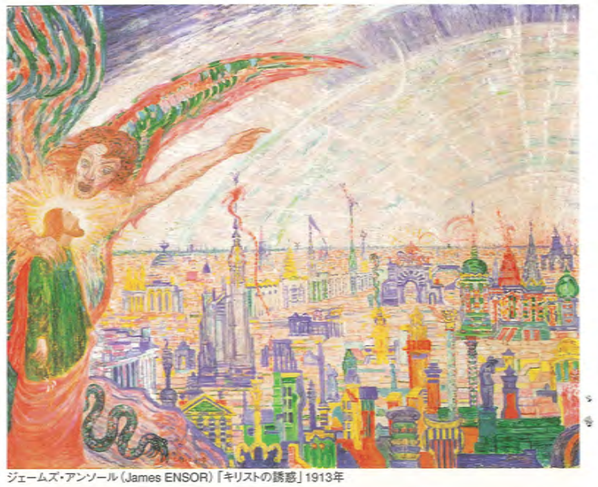
オノレ・ドーミエ（Honoré DAUMIER）
「ルフェーヴル」1830～32年頃塑像原型

伊丹市立美術館全景

Itami City Museum of Art has opened in November 1987, enlarging the building of Kakimori Bunko and utilizing the facilities jointly.

Over two thousands caricature prints, forty-nine sculpture and four oil paintings by Honoré Daumier, one of the leading artists of French nineteenth century art, form the nucleus of the museum collection, together with the satirical works of his contenporaries as well as satirical prints by the eighteenth century British artists, William Hogarth, James Gillray and George Cruikshank, and caricature prints by Käthe Kollwitz, a German painter of social protest who was deeply concerned with the misery and struggles of the poor. The basic concept of the museum collection is "satire and humor".

One of the important oil paintings by Raoul Dufy, "Amphitrite", bright and amusing large graphics by contemporary American artists, and paintings sculpture by Japanese contemporary artists, though small in number, enhance the collection.



ジェームズ・アンソール（James ENSOR）「キリストの誘惑」1913年

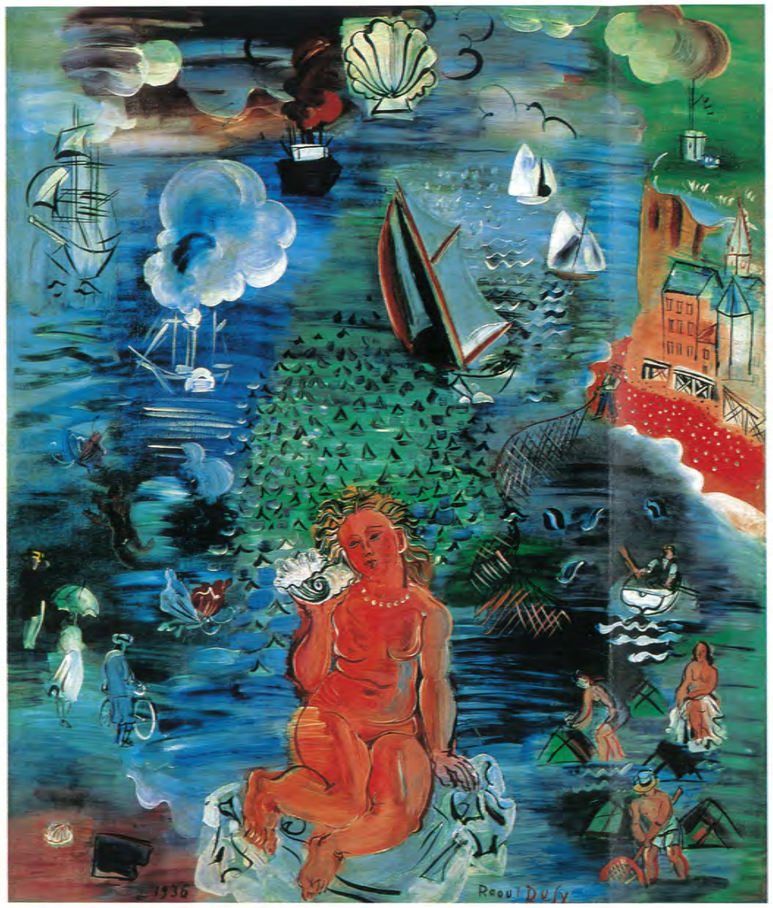
ジェイムズ・ギルレイ（James GILLRAY）「すべてを紙幣に変えるミダス王」1797年

表紙：オノレ・ドーミエ（Honoré DAUMIER）「ドン・キホーテとサンチョ・パンサ」1850〜52年頃

オノレ・ドーミエ（Honoré DAUMIER）
「ラタポワール」1850年頃塑像原型

本館の館蔵品は主として地下の常設展示室で次々と紹介しており、2階の展示室では年間6回の企画展を開催しております。これらの企画展も蒐集の精神に基づいて、メキシコの版画家ポサダ、館蔵品によるフランスのガヴァルニの展覧会、またドイツのマックス・クリンガー、ワイマール時代の諷刺画の展覧会、あるいは日本の葛飾北斎の北斎漫画、あるいは日本の版画界でも特筆される浜田知明といった作家たちの展示なども手がけてきました。今後もあまり他館がとりあげぬ異色の企画をとめざしています。

These works have been exhibited, in turn, mainly on the basement gallery reserved for showing the works selected from the museum collection.On the second floor gallery, six thematic exhibitions are presented annually conforming to the nature of the museum collection, such as "Spirit of Satire" and Mexican print artist's Posada, or French print artist's Gavarni in collection. However, we are also aiming at exploring a wider range of interest as seen in the exhibitions of Max Klinger who represents the artists of German, Kritische Grafik in der Weimarer Zeit, Hokusai Mangwa known as UKIYOE artist to Japan, or Japanese print artists worthly of mention, like Hamada Chimei. We are endeavoring to present unique projects that other museums are not dealing with.



ラウル・デュフイ（Raoul DUFY）「海の女神」1936年

ジェイムズ・ギルレイ（James GILLRAY）「プラム・プディング、危うし」1805年

ウィリアム・ホガース（Wiliam HOGARTH）「放蕩者一代記」第1葉1735年

ガヴァルニ（Gavarni）「パリの夜 12」1840年

オノレ・ドーミエ（Honoré DAUMIER）「トランスノナン街、1834年4月15日」1834年

オノレ・ドーミエ（Honoré DAUMIER）「くたばったなラファイエット…」1834年

■交通案内　阪急伊丹駅下車 東へ徒歩９分
ＪＲ伊丹駅下車 西へ徒歩６分
阪急バス尼崎池田線 伊丹本町下車 北へ２分

開館時間	午前10時から午後６時まで （入館は午後５時30分まで）
休館日	月曜日（祝日にあたるときはその翌日） 年末年始（12月29日～１月３日） （展示替え等のため臨時に休館することがあります。）
観覧料 小企画展	一般200円　大学・高校生100円 小・中学生50円
企画展 特別展	別料金となります。

※20人以上の団体は割引になります。

■お願い

- 喫煙、写真撮影は、ご遠慮ください。
- 陳列品には手を触れないでください。
- 図書室ご利用の際はコインロッカーをご使用ください。
- 他の観覧者に迷惑のかからぬよう静かにご覧ください。

■建築のあらまし

設計	坂倉建築研究所大阪事務所	規模	地上３階
監理	伊丹市建設部営繕課	高さ	軒高：8.0m
施工	株式会社竹中工務店大阪本店		最高部の高さ：14.9m
開館	昭和59年11月	構造	鉄筋コンクリート造
敷地面積	851.0㎡		
建築面積	488.2㎡		
延床面積	1,172.2㎡		

財団法人
柿衞文庫
KAKIMORI BUNKO

〒664-0895　伊丹市宮ノ前2-5-20
☎072-782-0244 FAX 072-781-9090
http://www.kakimori.jp

柿衞文庫
KAKIMORI BUNKO

柿衞文庫について

京・大阪に近く、酒どころとして経済的にも文化的にも水準の高い町であった江戸時代の伊丹では、俳壇も栄え、文人墨客の往来もさかんでした。そうした中で蓄積された文化遺産に、岡田柿衞翁による新たな系統的収集を加えて成立したのが柿衞文庫です。

柿衞翁岡田利兵衞先生

「柿衞」という名は、江戸時代に伊丹の美酒にひかれて訪れた文人たちが愛でた「柿」の木を「衞る」というところからつけられたものです。

文政12年（1829年）の10月のことです。漢詩人・学者として有名であった頼山陽が、同じく学者の篠崎小竹、画家の田能村竹田や高橋草坪らと箕面の紅葉狩をかねて伊丹へ来遊しました。当時、伊丹銘酒として知られた「剣菱」の醸造元坂上桐陰家で酒宴が開かれ、その席にみごとな柿ーへたの周囲が丸く盛り上がっているので台柿と呼ばれていますーが供されたのです。山陽たちはそのあまりな美味に驚くとともに、岡田家の庭にあるだけのたいへん珍しい柿だと聞き、各々の感興を詩文や画に託したのです。以後、岡田家の当主は「柿園」・「柿陰」など柿に由来する雅号を持ちますが、二十二代の岡田利兵衞は「柿衞」と号したのです。

柿衞翁は明治25年（1892年）伊丹に生まれ、家業の酒造業を継ぐとともに、伊丹町長、伊丹市長の要職を歴任、伊丹市名誉市民となりました。さらに芭蕉を中心とする俳文学の研究にいそしみ、学術研究の資料として多くの貴重な資料を収集しました。

昭和57年（1982年）６月、90年におよぶ多彩な生涯を閉じた翁の遺志により、そのコレクションは財団法人化され、同59年６月に建物が竣工、11月に開館のはこびとなりました。

文庫の由来となった柿の木は、今はもう見られませんが、接ぎ木をした二世の木が移植され、毎秋、たわわな実をつけています。

収蔵品のご案内

当文庫の収蔵品は、俳書を中心とする書籍約3500点、軸物や短冊など真蹟類約6000点を数え、東大図書館の「洒竹（しゃちく）・竹冷（ちくれい）文庫」や天理大学図書館の「綿（わた）屋文庫」と並ぶ日本三大俳諧コレクションと称されています。

柿衞翁は学術研究資料として収集されたため、山崎宗鑑に始まる中世の俳諧連歌から、近代の子規・碧梧桐に至るまでの作品を擁し、400年にわたる日本の俳文学の流れをたどることができます。

また頼山陽をはじめ、伊丹を訪れた文人墨客の名品多数も収蔵しています。

芭蕉以前

宗鑑筆「風寒し」自画賛

西鶴自画賛十二ヶ月帖

伊丹俳諧

宗旦編『三人蛸（たこ）』

鬼貫筆「によつほりと」句一行物

鬼貫著『独ごと』

芭蕉・蕪村・一茶など

素龍筆『奥のほそ道』柿衞本

芭蕉筆旅路の画巻

芭蕉筆「ふる池や」句短冊

芭蕉筆「荒海や」句切

許六筆芭蕉行脚像

蕪村筆俳仙群会図

一茶筆賀六十自画賛

近代の俳人たち

子規ら運座

漱石筆「蚊はしらや」句色紙

碧梧桐筆「春寒し」句短冊

その他文人墨客

頼山陽筆送母西下詩　など。

芭蕉　旅路の画巻

許六　芭蕉行脚像

ふる池や蛙飛込水のおと　芭蕉

おもしろさ急に八見えぬすゝき哉　鬼貫

春寒し水田の上の根なし雲　碧

西鶴　自画賛十二ヶ月帖より

利用のご案内

特別展

春季・秋季の年２回の特別展を開催いたします。期間中、記念講演会も行います。

小企画展

俳諧のはじまりから、貞門・談林・芭蕉・蕪村・一茶そして、子規以後近現代に至る、俳諧俳句の歴史を、年５回ほどのテーマをもうけて、館蔵品でたどります。

各種講座

「かきもり文化カレッジ」をはじめとするセミナーや講座、実技教室、あるいは講演会などを開催いたします。

図書・俳書閲覧

柿衞翁旧蔵の図書を中心に、国文学や美術関係の辞書・参考書・研究書を蔵し、室内での閲覧・研究に供します。

収蔵品のなかでも俳書類はマイクロフィルム化し、備えつけのリーダープリンターで閲覧・コピーできます。（コピーは有料）また、特に必要と認められる場合に限り、原本の閲覧（有料）を、当文庫職員立ち会いの上、おこなうことができます。

友の会

「柿衞文庫友の会」にご入会の方には、「友の会ニュース」をはじめ、各種催しの案内および、入館・閲覧の優待、図録配布などを行っています。

その他の主な事業

- **資料の収集・保存・調査研究**

柿衞翁の遺志を継承すべく、主として俳諧文学関係の資料の収集、調査、研究を推進します。

- **出版**

収蔵品図録としての『柿衞清賞』や、特別展の図録の出版をはじめ、収蔵品の複製や絵葉書などを発行します。

施設概要

延床面積：245.7㎡(展示スペースのみ)

設計管理：株式会社大林組　本店一級建築士事務所

施　　工：建築工事　　株式会社大林組　神戸支店

空調設備工事　高砂熱学工業株式会社

電気設備工事　株式会社ダイダン

衛生設備工事　須賀工業株式会社

工　　期：2008年7月～2009年4月

開　　館：2009年7月7日

美術館利用のご案内

開館時間

午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

休館日

- 毎週月曜日(祝日の場合は翌火曜日)･年末年始
- 展示替え期間

※ 臨時に休館することがありますので、最新の休館日につきましては当館に直接お問い合わせ下さい。

入館料

- 企 画 展　展覧会により異なります
- 館蔵品展　一　　般　300円
  高・大生　200円
  小・中生　100円

※ 次の方は入館料を半額で優待いたしております。
各種証明書を受付にてご提示ください。

①障がいのある方とその付添いの方1名
②65歳以上の方

交通のご案内

阪神岩屋駅改札を出てすぐ南側
JR灘駅より南へ徒歩約3分
阪急王子公園駅より南へ徒歩約10分
駐車場(乗用車80台･1時間まで無料)

BB Plaza MUSEUM of Art
BBプラザ美術館
〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 BBプラザ2F
TEL 078-802-9286　FAX 078-802-9287
http://www.bbpmuseum.jp

BB Plaza MUSEUM of Art

朝の光の中に　髙山 辰雄

BBプラザ美術館

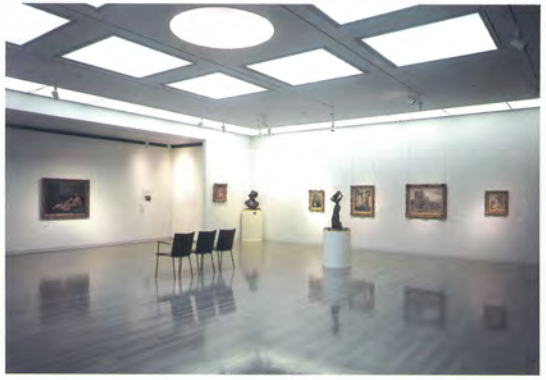
21世紀文明研究セミナー2010　Sakagami Y

BB プラザ美術館は、株式会社シマブンコーポレーションの創業100 周年記念事業の一環として、2009 年7月、神戸市灘区に開館いたしました。

当館のコレクションは、日本を代表する近・現代の日本画家や洋画家をはじめ、フランスの巨匠たちによる絵画や版画、彫刻作品により構成されております。

日本画では、小倉遊亀、髙山辰雄、加山又造といった日本画壇の代表画家たちの個性ある作品を、洋画では藤島武二、岡鹿之助、小磯良平といったパリに遊学した画家たちの作品を所蔵しております。なかでも、ドランの影響を受けているといわれる安井曽太郎の『黒き髪の女』は、独自の裸婦の様式を確立するまでに長期にわたり試行錯誤を繰り返し、その真摯な制作姿勢の中から生まれた力作であります。

海外の作品としては、印象派の代表的画家として親しまれているルノワール、哀愁に満ちたパリの街角を描いたユトリロ、暗い色調とスピード感ある筆触が特徴のヴラマンク、版画ではピカソや藤田嗣治などの作品を有しております。



また当館では、フランス近代彫刻の父とよばれるロダンの『ネレイデス』と、彼の助手を務めたブールデルの『三つのポーランド』をロビーに展示しており、ロダンの影響を超え自己の表現方法を確立したブールデルと彼を認めたロダンの師弟作品の造形美を来館される方々に身近に感じていただけるよう努めております。

BBプラザ美術館は、「暮らしの中にアートを」を理念とし、多くの方々に所蔵作品一点一点との親しみを深めていただければと願っております。そして新たなる出会いを求め、地域社会の芸術文化振興の一助となるべく、開かれた美術館創りを今後もめざしてまいります。

「黒き髪の女」 安井曽太郎 1924年

「薔薇をつけた少女」オーギュスト・ルノワール 1915年

「ノートルダム　曇天」 アルベール・マルケ　1924年頃

「三つのポーランド」
（アダム・ミスキュヴィッチ記念碑）
アントワーヌ・ブールデル
1928 年

「勝利のヴィーナス」
オーギュスト・ルノワール
1914-1916年

「ネレイデス」
オーギュスト・ロダン
1887 年以前